

だより 便利堂 京都

KYOTO
BENRIDO
DAYORI

2025 VOL.20
7/8
盛夏号

アートのある暮らしで彩りを

便利堂ものづくりインタビュー

Michael Kenna さん

マイケル・ケンナ さん
写真家●写真とは旅すること



【特集】おすすめ新商品

京都はん & 定期便

便利堂 × tupera tupera ●定期便第3弾「琳派—継承の美」新登場！

美術はがきソムリエからの

日本文化の美とともに
歩み続けて139年



全20種より
「京都はん」
で販売中！

〈京都はん〉全20種 直径18cm 各¥1,320

市内20か所のサテライトショップで各1種類の
〈京都はん〉を販売中！ 京都便利堂本店では全
20種、公式オンラインでは〈舞妓はん〉〈京都タ
ワーはん〉の2種がご購入いただけます。詳しく
は本誌14頁をご覧ください。



本誌に記載された表示価格は、すべて税込です。

折々の絵はがき

《比叡山》速水御舟
大正8年 東京国立博物館蔵

夜明け前でしょうか、青い山肌の静けさからは、耳
を澄ませばかすかに山の鼓動が聞こえる気がしました。悠然たる山も脈打ち、息づいているのかもしれません。途方もなく大きな身体には計り知れない生命力が秘められているのでしょうか。「神秘」とも言い換えられそうなその力は、奥深い山中のどこかにある清らかな泉のように、誰も知らない場所で絶えずこんこんと湧き出しているに違いありません。

ふと、山へ足を踏み入れたときの湿った土や木の匂いが鼻をかすめました。ここには生き物たちの営みがあり、人間が決してうかがい知ることのできない世界がどこまでも広がっているのでしょうか。比叡山には延暦寺はもちろん、麓の日吉大社など多くの神仏が祀られています。そしてこの絵を見ていると、辺りを払うような威厳に満ちた比叡山そのものもまた神様なのだという気がしてくるのです。

速水御舟は明治末から昭和初まで東京で活躍し、近代日本画に大きな足跡を残しました。40歳で早逝したため、活動期間は20数年と長くありませんでしたが、南画や西洋画など幅広い表現を学び、生涯を通じて常に新たな表現に挑み続けました。

表紙の絵はがき：
絵はがき〈比叡山〉
速水御舟 ¥110

京都便利堂 だより

2025 VOL.20
7/8
盛夏号

CONTENTS

- アートのある暮らし 02
- 便利堂ものづくりインタビュー
マイケル・ケンナさん 04
- 季節のごあいさつ 12
- 美術はがきソムリエからの定期便 13
- 【特集】おすすめ新商品
京都はん / 定期便のご紹介 14
- Information 16

2025年
7月1日発行
(奇数月発行)
企画・制作・発行
Director
Chief Staff
Staff 西川 愛 / 増尾麻黄 / 渡邊 葵
株式会社便利堂
鈴木 巧
中嶋直子
葵

※本誌記載の記事、写真、イラストなどの無断転載を禁じます。

写真：山内崇誠（便利堂写真工房）

日々の生活に美術を取り入れることは
暮らしさに彩りを与えてくれます。
便利堂では、古典の名作から現代の作品まで
さまざまな美術作品をモチーフとした
アイテムを取り揃えています。
毎号その中から、おすすめをピックアップして
美術商品と暮らす日常風景をご紹介していきます。



アートのある 暮らし。○京都はん(祇園祭はん)



2015、北海道にて愛機ハッセルブラッドと ©Tsuyoshi Kato

この宗教的な教育には、その後私の写真作品に強く影響を与えた側面があります。

校に進学し、そこで7年間学びました。このアップホランドにあるセント・ジョセフ・カレッジは、私に多くの重要な教訓を与えてくれました。この宗教的な教育には、その後私の写真作品に強く影響を与えた側面があります。例えそれは、規律、静寂、瞑想、そして目には見えないけれどもそこにまだ存在しているという感覚です。振り返ってみると、この教育は素晴らしいものでしたが、私がもうこの道には進まないと決心した後は、あまり強く進路指導されることはありませんでした。幸い私はデッサンと絵画の才能があつたようで、オックスフォードシャーのバンバリー・スクール・オブ・アートで学ぶことになりました。

——その後、いよいよ写真の道へ進みました。

バンバリーで美術基礎を1年学んだ後、ロンドン・カレッジ・オブ・プリンティングに進学し、写真を3年間学びました。フォトジャーナリズム、ファッショング写真、スポーツ写真、静物写真、建築写真など、あらゆる種類の写真を、さまざまなもので競争の激しい商業写真のマットで学びました。ですので卒業したときには、世界で十分生き残る力は持てるはずでした。

——その後、いよいよ写真の道へ進みました。

アートとしての写真を意識する大きなきっかけですね。その後どのように経緯で作家の道へ？

英國に戻ると、商業的な撮影アシスタント兼プリントの焼き付け担当として

Michael Kenna (マイケル・ケンナ)

1953年イギリス北西部ランカシャー生まれ。ロンドンで学んだ後、1970年代にアメリカへ移住し現在はシアトル在住。日本を好んで題材にしながら、豊かな詩情を湛えた作品は世界的に高い評価を得ている。これまで70以上に及ぶ世界中の美術館に所蔵され、数多くの写真集を出版している。写真は2023年2月の工房来訪時、刷版作業室にて。



Michael Kenna さん

●写真家

手ごろな商品を通じて美術をより身近に親しんでいただきたい——。企画・デザインから制作まで、妥協のない姿勢で取り組んでいる便利堂のものづくりの裏側を、作り手の声でご紹介していきます。

今回は、モノクロの静謐な風景写真で世界的に知られるマイケル・ケンナさんに、作品制作の背景、日本をテーマにした作品も多いケンナさんが抱く日本への思い、そしてケンナさんのポートフォリオを制作した便利堂コロタイプ工房への印象などについてお話を伺いました。

聞き手：社長室 前田千穂

便利堂 ものづくり インタビュー

【第20回】

——ケンナさんはイギリスご出身ですが、どんな少年時代でしたか？

私はイングランド北西部、ランカシャー州の工業都市ウェーデンスの貧しい労働者階級の家庭に生まれ育ちました。幼少期の体験は人生に大きな影響を与えるものですが、少年時代の私は5人兄弟なのに、いつもひとりぼっちで近くの公園や通りで自分の考えた冒險をして楽しんでいました。駅や工場、ラグビーのグラウンドや運河の曳舟道、誰もいない教会や墓地などを歩き回るのが好きだったんです。これらの場所は後に写真に撮ると面白いと思うようなどころであり、もちろん当時はカメラを使っていませんでしたが、その後に美術学校や写真学校で過ごした時間よりも、この時間が最終的に私のビジョンに大きな影響を与えたんじゃないと思っています。

——ケンナさんが風景写真を撮り始めたのはこの頃でしょうか？

ええ、授業と並行して、自分が情熱を注げる趣味として風景を撮っていました。当時はこの分野で生計が立てられないとも、いざそれとなるとも思つていませんでした。そんな折、学生生活の終わり頃ですが、交換留学生としてアメリカを訪れるという機会を得ました。ニューヨーク州北部のホテルでベッドメイキング、窓拭き、草刈り、部屋のペンキ塗りなどのアルバイトをしました。華やかな仕事ではなかつたですが、素晴らしい文化体験ができます。というのも、2週間ごとに3日の休みがもらえたので、ヒッチハイクでボストン、ワシントンDC、ニューヨークを訪れ、そこのアートギャラリーや美術館で私がイギリスでは体験したことのない文化に触れることができたんです。写真がファインアートとしてギャラリーで展示されているんですねから！ これは私にとってまったく新しい体験であり、自分の志を高める大きな励みとなりました。

——その後、いよいよ写真の道へ進みました。

アートとしての写真を意識する大きなきっかけですね。その後どのように経緯で作家の道へ？

英國に戻ると、商業的な撮影アシスタント兼プリントの焼き付け担当として

——ケンナさんはフィルムカメラで作品を撮っていますが、どんなカメラですか？

ケンナさんはフィルムカメラで作品を撮っていますが、どの

学校で学ばれたそうですが、それも作品に影響をもたらしていますか。

この頃は、地元にあるセントビーズカトリック教会で侍祭役の子どももとして洗礼式、葬儀、結婚式、ラテン語ミサで司祭の手伝いをし、教会の偉大な儀式の一員であることを楽しんでいました。11歳ぐらいのとき、自分も司祭になりたいと全寮制のカトリック神学

ルース・バーンハート (Ruth Bernhard, 1905-2006) :
ドイツ生まれのアメリカの写真家。アンセル・アダムスに「ヌードの最も偉大な写真家」として讃えられた。

50年以上前に写真を始めてから、

ずっと使ってきたアナログのフィルムカメラとレンズにこだわり続けていま

す。現在使っているハッセルブラッドのカメラはもう40年近くも使つてい

て、試行錯誤を重ねながら信頼を築き上げた、慣れ親しんだ友人たちです。こ

もちろん、カメラは老朽化や使いすぎで時々故障します、私もだけね。笑

同じくらい、あるいはそれ以上の仕事をするカメラは他にもあるでしょう。

でも私は自分の仕事道具を変える必要性も欲求も感じてきませんでした。こ

れらのカメラは私のビジョンの延長線上にあるものなんです。

——デジタルカメラをお使いになつたことはありますか？

少し試してみたことはあります、技術的には非常に素晴らしいものだと思いました。本当のところ、私が使っている今の携帯電話の方が、年季の入ったハッセルブラッドよりもいい写真が撮れますよ！でも、おそらくデジタルが最もよく知られることになつた理由の多く、例えスピーディー、解像度、鮮明さ、色の濃さ、そして様々なアプリで画像を瞬時に操作できる無限の可能性などが、逆に私をデジタルから離させてしまいます。私にとつては、高速のF1レーシングカーでAか



私は人と風景の相互作用の記憶や痕跡、証拠を探しているのです。

私ははずつと、私たちが見ているもの

——「暗示」とは？

——いつもどんな風に撮影されているのですか？

とを、私はとても光榮なことだと思っています。写真を撮るという行為は、私的人生を旅する上で、大いにその旅を楽しくしてくれる不可欠でずっと共にある部分です。写真を通して自分の経験を他の人と分かち合うことは、私にとってとても大切なことなのです。

概して、私の作業方法はとてもシンプルです。三次元の世界にある自分にとつて興味深いものを探し出し、それを二次元の写真プリントで楽しめるよう翻訳・解釈するのです。パターンや抽象性、グラフィックな構図で主題を探します。そのイメージの本質には、人間が作り出した構造物と、風景のより流動的で有機的な要素が、基本的にセットで含まれていることが多いです。私は、神秘的で趣のある場所が好きで、それらはたいがい古びた所ですが、そこでいくつかの（実はたくさん）疑問に対する答えを、暗示されることが多いです。暗示は明示されるよりも重要だと思っています。私は人と風景の相互作用の記憶や痕跡、証拠を探しているのです。

コロタイプ・ミニポートフォリオ《北海道 2020》より
(氷紋、習作1)

は、そこにあるもののほんの一部に過ぎないと強く思つきました。この視点は、幼少期の宗教的な教育から来ていました。写真家はそれぞれ、自分に最も適した技法や素材を用いて、自分なりの方法でクリエイティブなビジョンを追求すべきだから

——きっと手間暇を惜しまないことでしか見えないものがあるんですね。

私はデジタル写真に反対するつもりです。やりがいがあり、骨の折れる重労働です。でも私は、宝石のような銀塩のプリントの上に解釈を生み出すこの忍耐強いプロセスが大好きです。

——確かにケンナさんの作品を見ていると世界はなんと静謐で美しいのだろう

と思わずにはいられません。撮ろうとする風景のどんなところに惹かれて

——銀塩プリントについてはいかがでしょう？

同じような理由で、ちょっと古風ですが素晴らしい伝統である銀塩プリントのプロセスにも強い愛着を抱いています。私は嬉々として暗室で何時間も作業しています。時々自分が、石の塊の中に隠された姿を発見し解き放とうとする彫刻家のように感じることもあります。やりがいがあり、骨の折れる重労働です。でも私は、宝石のような銀塩のプリントの上に解釈を生み出すこの忍耐強いプロセスが大好きです。

——銀塩プリントについてはいかがでしょう？

——銀塩プリントについてはいかがでしょう？

——銀塩プリントについてはいかが

でも私は自分の仕事道具を変える必要性も欲求も感じてきませんでした。こ

れらのカメラは私のビジョンの延長線上にあるものなんです。

——デジタルカメラをお使いになつたことはありますか？

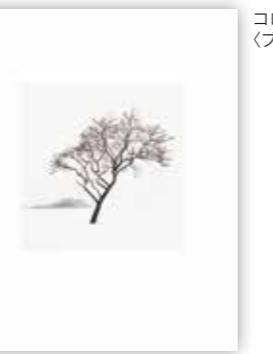
少し試してみたことはありますが、技術的には非常に素晴らしいものだと思いました。本当のところ、私が使っている今の携帯電話の方が、年季の入ったハッセルブラッドよりもいい写真が撮れますよ！でも、おそらくデジタルが最もよく知られることになつた理由の多く、例えスピーディー、解像度、鮮明さ、色の濃さ、そして様々なアプリで画像を瞬時に操作できる無限の可能性などが、逆に私をデジタルから離させてしまいます。私にとつては、高速のF1レーシングカーでAか

——デジタルカメラをお使いになつたことはありますか？

少し試してみたことはありますが、技術的には非常に素晴らしいものだと思いました。本当のところ、私が使っている今の携帯電話の方が、年季の入ったハッセルブラッドよりもいい写真が撮れますよ！でも、おそらくデジタルが最もよく知られることになつた理由の多く、例えスピーディー、解像度、鮮明さ、色の濃さ、そして様々なアプリで画像を瞬時に操作できる無限の可能性などが、逆に私をデジタルから離させてしまいます。私にとつては、高速のF1レーシングカーでAか

私は写真とは、旅をすることだと考えています。

コロタイプ・ミニポートフォリオ《北海道 2020》より
(ブラックストーンヒルの木)



ワーナー・ビショフ (Werner Bischof, 1916–1954)：
スイスの写真家、フォトジャーナリスト

には、雪の中を歩く修道士が写つてありますし、私のスタジオの壁に飾つてあるマリオ・ジャコメッリ*の作品は、神学生たちが雪玉を投げ合っています！ 数え切れないほどの巨匠写真家の作品には人物が登場していますよね。人のいる風景はとても美しいものです。だから、私が人を登場させないのは私の限界なのかもしれません、不在の存在は私の作品に不可欠な側面なのであります。私は人物を撮影することはほとんどありませんが、人が残した空氣感や語られるべき物語を探しています。人間の存在、あるいは不在は、私の作品において非常に重要です。



——さて、2023年2月の雪が降る寒い日、大きな機械が何台も並び、インキの匂いが漂い、印刷された紙が吊るされているコロタイプ工房へ初めて来てくださいました。初めてご覧になつた時の印象を教えてください。

便利堂の工房は、アップホランドの全寮制神学校で学んでいた頃に4年間ボランティアとして働き、最後の2年間は機長を務めていたウォルソー印刷所をちょっとと思い出させました。印刷所には2台のアラブ社印刷機、紙を裁断するための巨大なギロチンカッタ一、いろんな書体を取り揃えた活字、

私にとって便利堂は、創造性、職人技、伝統、献身、そして苦労して身につけた技術を真摯に応用する素晴らしい場所です。

コロタイプ・ミニポートフォリオ《四国》より
〈寺院の灯籠、徳島 燐山寺、2010〉

房で仕事して過ごす時間はとても好きでしたよ。一人で、時には同僚と一緒に、時間かけて活字を組み、校正し、印刷をしていました。それは人生のオアシスでした。もちろん、便利堂はもっと大きく、もっと長い歴史を持ち、もっと広大な事業を行っていますが、ここもまた日常からのオアシスであると言つてもいいと思います。私たちの多くがそうであることを知つていて、ますし、また経験していきますから。「インキの匂い、吊るされた印刷された紙、何台もの大きな機械」…まさにその通りです。そしてそこには、実際に手作業で仕事を行つてゐる人々がおられます。手や体を使つて印刷やプリントのスポット修正を行い、版を準備する人々、コンピューターの前に座つているだけではない人々がね。私にとつて便利堂は、創造性、職人技、伝統、献身、そして苦労して身につけた技術を真摯に応用する素晴らしい場所です。

——その言葉に職人みんながどれほど喜ぶでしょう。ケンナさんのミニポートフォリオとして『北海道』と『四国』がコロタイプで制作されています。コロタイププリントの印象を教えていただけますか。

希少な技術を後世に遺したいと考えて
いるのですが、ケンナさんはそのため
にどんなことが大切だと考えますか？

絶滅の危機に瀕する生態系や環境は大きな懸念です。それによつて健康が損なわれることも大きな懸念です。デジタル革命が始まつたときから、写真が現実とのつながりを失つてしまふのではないかと、私は少し懸念していました。億単位のデジタルアプリケーションが存在し、A-Iが登場し、私はもはや何も確信することができなくなつてしましました。テクノロジーがより洗練されるにつれて、新しいイメージの見方や作り方が現れてきたのです。写真のまったく新しい世界は、より多くの人々にアクセスできるよう

になりました。それは素晴らしいことです。時間は止まつていないし、避けられない変化を嘆いてもあまり意味がないと思います。古い技術、例えばレコードのような技術を失う危険性は常

になります。印画紙や薬品が製造されなくなつたらどうするかとよく聞かれますが、私は別の表現手段を選ぶと答えます。人生という大局から見れば、それで私の世界が終わるわけではありません。私は、便利堂とコロタイプがこれからもずっと統き、その独自性によつてさらに強くなつていくことを望み、信じています。しかし、永遠に統



コロタイプ・ミニポートフォリオ《四国》より
〈蠟燭供物、香川 八栗寺、2010〉

「いくらか郷愁を覚えながらこの古都を36年前に初めて訪れたときのことを思い出している。すべてが新しく、刺激的だった。じっくりこの目で見て、フィルムに収めた。祇園の路地をぶらぶらと歩き、薄暗く、エキゾチックな仏教寺院へ、明るく、色彩豊かな神社へとおずおずと入っていった。儀式的な茶会に出席し、謎めいた漢字が書かれた美しい巻物に驚嘆した。熱い風呂につかる神秘を発見し、川沿いの古い旅館では畳の上に寝た。コンビニで食事を調達し、たどたどしい日本語にも初めて挑戦した。一瞬のうちに、静かに、どうしようもなく、日本と恋に落ちていくのは避けようもなかった。」
（「JAPAN / A Love Story」より、『日本 | ラブストーリー』2024、Nazzraeli Press）

似ています。比較的国土は小さく、何世紀も人が住み、海に囲まれ、すべての土地と海辺には物語があるところなど。日本は台風、地震、津波、火山噴火の可能性もあります。土地は生き生きとたくましく、自然の力が強い国です。日本を経験することで、私たちの絶え間なく変化する世界のはかなさと美しさへの気づきが深まると信じて

奥深さに、私はそれを感じます。日本
のどこに行つても、土地に対する深い
敬意と尊敬に気づきます。いたるどこ
に存在する鳥居は、神が寺社だけで
なく、大地、空、水の中に宿っている
ことを視覚的に象徴し教えてくれま
す。この信仰体系は、私にとつて非常
に大切なものです。私たちの宇宙を
尊重し、敬い、あがめることを常に思
い出させてくれます。

めているプリント
す。私たちは人の手がかかせないこの

——ケンナさんはこれまで世界各国の人みんながどれほどノンナさんのミニ『北海道』と『四国』を作されています。の印象を教えていべき景色が失われる経験もなさったのではないかでしょうか。失われたものは二度と取り戻すことができません。産業としてコロタイプを伝承する工房はいまや便利堂含めて2社となっています。セスは、私が個人

の世界の多くの側面を象徴していると感じています。そう、アナログで、時間がかかり、手間がかかります。デジタルプリントのように高度に細分化し効率化しようとしません。労働集約的なやり方です。これはアナログの銀塩プリントと共通しており、銀塩と同じように、「機械」ではなくプリントを作る「人間」とのつながりを感じるのだと思います。写真プリント、特にデジタルプリントの問題のひとつは、それが写真家から解離する傾向があることだと思います。作品と作者とのつながりを確立し、維持できることが重要だと思います。それは私がすべての銀塩プリントを自分でプリントすることにこだわり、ひとつひとつのプリントを手作業で何時間もかけてスポット修正する理由のひとつでもあります。たとえ同じものが何枚もあつたとしても、それぞれのプリントの個性が感じられるほうがいいと思うんです。

写真と暮らす

コロタイプ ミニポートフォリオシリーズ

ポートフォリオとは"作品集"のこと。京都便利堂のミニポートフォリオは、国内外の著名な写真家の作品をコロタイプならではの味わいで楽しんでいただけるシリーズです。プリントサイズは8×10inch(20.3×25.4cm)。1枚ずつ手にとって鑑賞していただくのはもちろん、ぜひお気に入りの作品を見つけてインテリアに取り入れてください。

■ミニポートフォリオシリーズ(現在19作)

- マイケル・ケンナ 《四国》
- マイケル・ケンナ 《北海道2020》
- ファン・ホー 《Selected Works》
- ソール・ライター 《Selected Works》
- ロベール・ドアノー 《Selected Works》
- かじおかみほ 《ミライの記憶》
- 白石ちえこ 《島影》
- 野村佐紀子 《Träumerei》
- 尾仲浩二 《Slow Boat》
- 柴田敏雄 《日本典型》
- 牛腸茂雄 《Selected Works》
- 植田正治 《砂丘》
- 植田正治 《遙かなる日記》
- 山本昌男 《鳥》
- 川内倫子 《Early Works 1997》
- 須田一政 《無名の男女—東京1976-78》
- 安井伸治 《安井伸治写真作品集》
- 森村泰昌 《卓上のバルコネグロ》
- 堀内誠一 《音楽の肖像》

¥6,600～¥13,200

モノクロームの吸い込まれるような陰影と奥行きが
リラックスする空間に整えてくれます。



マイケル・ケンナ 《四国》
8作品収録 ¥9,900



——ケンナさんのミニポートフォリオは「日本4部作」となる予定と聞きました。残すところ《九州》《本州》の2作品ですが、便利堂とのものづくりについて聞かせてください。

便利堂との仕事を心から楽しんでいます。プロとしても個人としても、非常にやりがいのある、満足のいくプロジェクトを大いに楽しみにしています。便利堂のみなさんが取り組んでくれたすべてに対し、おひとりおひとりに感謝申し上げたいです！ 我々みんなへの励ましの言葉として「がんばります！」という言葉を贈ります。

なまでにロマンチックです。視覚的にも、北海道は私にとって地上の楽園であり、まさに冬のワンドーランドです。海に囲まれ、優雅な湖、優美な山々があり、え切れないほどの雄大な木々があり、写真の題材には事欠きません。北海道の冬の厳しさが、身近な環境への意識を際立たせているように感じます。葉のない木々、色彩の欠如、不穏なほど

の静寂など、感覚を妨げるものがそぎ落とされているからこそ、より意識を集中し、純粹に土地に焦点を当てることが求められます。これらの状況は、私が現在進行中の創作活動において極めて重要なこととしてきたものです。

月からはフランスでケンナさんの回顧展*「Haikus d'argent(銀の俳句)」が開催されます。会場では、この展覧会を記念して限定制作されたコロタイププリント《Waterfall(滝)》が展示販売されます。《四国》シリーズからの1点ですが、この作品を撮影したきっかけを教えてください。

2003年11月の私の50歳の誕生日に、四国八十八ヶ所巡礼の旅に出ることになりました。全行程を歩き通すには半年ぐらい必要ですが、残念ながらその余裕はなかったので、少しづつをして、車を使って1ヶ月で回りました。それでも、深く感動し、忘れられない体験となりました。各寺院では、真言を唱え、祈り、ご朱印をもらい、そして目に入るものは何でも写真に収めました。この小さな滝は、11番目札所の藤井寺(徳島県)で見つけました。寺の池に流れ落ちる水の音を聞きながら、長時間露光で写真を撮ったのを覚えています。静かに瞑想するような、素晴らしいひとときでした。今、出来上がったプリントを前にして、あの特別な場所と穏やかで安らぐ満ち足りた豊かな瞬間がありありと思い出されます。

——完成したプリントの印象はいかがでしたか？

マイケル・ケンナ回顧展
Haikus d'argent, l'Asie photographiée
(銀の俳句、撮影された東洋)

2022年11月に作品をフランスに寄贈したことを記念して、
アジアで撮影した作品のみによる初の回顧展
2025年6月11日から9月29日まで
パリ・フランス国立ギメ東洋美術館にて開催中

ジョン・シャーカフスキ(John Szarkowski, 1925-2007)
アメリカの写真家、学芸員、歴史家、評論家。1962年から1991年まで、ニューヨーク近代美術館(MoMA)のディレクターを務める。1978年、MoMAを皮切りに全米8か所を巡回した写真展「Mirrors and Windows」をキュレーションした。

——展覧会をご覧になる方にどのように楽しんでいただきたいですか？

私は、どのように鑑賞するかは完全に各個人に委ねられていると考えています。どう見るべきかを設定することが私の特権とは思っていません。私の写真は、招待状や誘い水のようなものだと思っています。ジョン・シャーカフスキが語るように、写真は鏡であると同時に窓であり、世界を眺めると同時に自分自身の内面を見つめる機会を与えてくれます。あらゆる体験は、それぞれ個性的で個人的なものかもしれません。私は見る人を、視覚的な体験の入口へと誘うだけなのです。そこで日常生活に戻るまでのしばしの間、自身の個性や記憶に触れ、イメージーションを働かせ、その間少し道に迷うかもしれません。ひょっとすると、もしかしたら、うまくいけば、ほんのほんの、ほんの少し、それ以前の自分と変化しているかもしれないのです。

※誌面の都合上、抄訳掲載となつて
います。インタビュー全文並びに英
語原文はこちからご覧ください。



コロタイプ・プリント《Waterfall(滝)》 限定75部



「嶮岨(ケンナ)」
ギメ東洋美術館での回顧展を記念して便利堂で制作した落款印

予想通り、そして嬉しいことに、大変感銘を受けました。紙は手触りがよくエレガントで、コロタイプは深みのあるインキの黒が美しく、立体感がありました。これらのプリントの下に自分の名前を記すことを誇りに思います。

——展覧会をご覧になる方にどのように楽しんでいただきたいですか？

私は、どのように鑑賞するかは完全に各個人に委ねられていると考えています。どう見るべきかを設定することが私の特権とは思っていません。私の写真は、招待状や誘い水のようなものだと思っています。ジョン・シャーカフスキが語るように、写真は鏡であると同時に窓であり、世界を眺めると同時に自分自身の内面を見つめる機会を与えてくれます。あらゆる体験は、それぞれ個性的で個人的なものかもしれません。私は見る人を、視覚的な体験の入口へと誘うだけなのです。そこで日常生活に戻るまでのしばしの間、自身の個性や記憶に触れ、イメージーションを働かせ、その間少し道に迷うかもしれません。ひょっとすると、もしかしたら、うまくいけば、ほんのほんの、ほんの少し、それ以前の自分と変化しているかもしれないのです。

なまでにロマンチックです。視覚的にも、北海道は私にとって地上の楽園であり、まさに冬のワンドーランドです。

なまでにロマンチックです。視覚的に

月からはフランスでケンナさんの回顧展*「Haikus d'argent(銀の俳句)」が開催されます。会場では、この展覧会を記念して限定制作されたコロタイププリント《Waterfall(滝)》が展示販売されます。《四国》シリーズからの1点ですが、この作品を撮影したきっかけを教えてください。

2003年11月の私の50歳の誕生日に、四国八十八ヶ所巡礼の旅に出ることになりました。全行程を歩き通すには半年ぐらい必要ですが、残念ながらその余裕はなかったので、少しづつをして、車を使って1ヶ月で回りました。それでも、深く感動し、忘れられない体験となりました。各寺院では、真言を唱え、祈り、ご朱印をもらい、そして目に入るものは何でも写真に収めました。この小さな滝は、11番目札所の藤井寺(徳島県)で見つけました。寺の池に流れ落ちる水の音を聞きながら、長時間露光で写真を撮ったのを覚えています。静かに瞑想するような、素晴らしいひとときでした。今、出来上がったプリントを前にして、あの特別な場所と穏やかで安らぐ満ち足りた豊かな瞬間がありありと思い出されます。

——完成したプリントの印象はいかがでしたか？



予想通り、そして嬉しいことに、大変感銘を受けました。紙は手触りがよくエレガントで、コロタイプは深みのあるインキの黒が美しく、立体感がありました。これらのプリントの下に自分の名前を記すことを誇りに思います。



Information

京都便利堂本店

お盆期間(8月14・15・16日)も通常営業にてお待ちしております。

便利堂本社 1F には、美術商品を取り揃えた京都便利堂本店を開設しております。ぜひ京都にお越しの際はお立ち寄りください。

【営業時間】 10:00 ~ 19:00

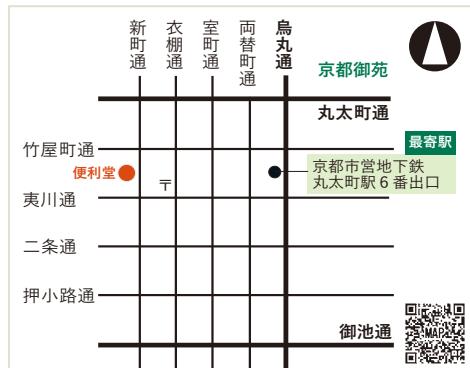
【定休日】 日・祝日

【Telephone】 075-231-4351 (代表)

Instagram@kyoto.benrido

X@kyotobenrido

facebook@kyotobenrido.shop



【アクセス】

〒 604-0093

京都市中京区新町通竹屋町下ル弁財天町 302 番地

〈公共交通機関でおこしの方〉

- ・市営地下鉄烏丸線「丸太町」下車 ⑥番出口より徒歩 7 分
- ・市バス 「文化庁前・府庁前」下車徒歩 5 分



〈お車・タクシーでおこしの方〉

- ・京都駅から 15 分、お客様駐車場あります。
- ・タクシードライバーに「新町通り夷川(えびすがわ) 上がる」とお伝えください。

コロタイプギャラリー

便利堂コロタイプギャラリー〈夏秋季〉企画展示

①第13回社員ワークショップ展 ②マイケル・ケンナ展 ③法隆寺金堂壁画複製展

京都便利堂本店がある便利堂本社には、〈コロタイプギャラリー〉が併設されています。今年の夏秋季企画展は、3つの展示を行います。特に6月16日からの《法隆寺金堂壁画原寸大複製》展では、全12面の壁画複製が一堂に展観されます。

〈第13回コロタイプ
手刷りプリントのおもしろさ〉展



①ギャラリー1
(北海道・四国—ポートフォリオより)
Michael Kenna (マイケル・ケンナ)



金堂壁画原寸大撮影 90周年記念 ③ギャラリー2
(法隆寺金堂壁画原寸大複製全12面)展



会期：① 2025年6月16日(月)~7月12日(土) / ② 7月14日(月)~9月27日(土)

会期：2025年6月16日(月)~11月8日(土)

開廊：10:00 ~ 12:00 / 13:00 ~ 17:00 休廊：日・祝日 入場：無料